

FD Information

第17号

2014

July

CONTENTS



- 平成26年度FD委員会・FD推進委員会委員一覧 ▶ 1
- FD推進 活動レポート ▶ 1
平成25年度後期「授業アンケート」の実施
- 授業インタビュー ▶ 2
- 学外FD企画 参加レポート ▶ 3
- FD講演会の開催について ▶ 3
- 平成26年度前期「授業アンケート」の実施について ▶ 4
- 平成26年度前期
「授業の公開・参観についてのアンケート」へのご協力について ▶ 4
- FD関連図書のご案内 ▶ 4

平成26年度FD委員会・FD推進委員会委員一覧

●平成26年度FD委員会

役職	氏名
学長、全学自己点検・評価委員会委員長	林 忠 行
文学部長	新 間 一 美
発達教育学部長	森 繁 男
家政学部長	斎 藤 英 俊
現代社会学部長	伊 藤 正 憲
法学部長	平 野 充 好
文学研究科委員長	坂 口 満 宏

役職	氏名
発達教育学研究科委員長	広 瀬 雄 彦
家政学研究科委員長	諸 岡 晴 美
現代社会研究科委員長	鳥 谷 一 生
教務部長	田 上 稔
総務部長	吉 川 大 栄
FD推進委員会委員長	表 真 美
図書館司書課程	桂 まに子

●平成26年度FD推進委員会

役職	所属	氏名
委員長	教育学科教育学専攻	表 真 美
副委員長	食物栄養学科・家政学研究科	川 添 禎 浩
委員	国文学科	普 賢 保 之
	英文学科	武 田 美 保 子
	史学科	告 井 幸 男
	教育学科心理学専攻	吉 村 英
	教育学科音楽教育学専攻	荒 川 恵 子
	児童学科	古 池 若 葉
	生活造形学科	坂 田 佳 子
	生活福祉学科	中 村 保 幸
	現代社会学科	竹 安 栄 子

役職	所属	氏名
委員	法学科	桜 沢 隆 哉
	外国語準学科	野 村 潤
	文学研究科	山 田 雅 彦
	発達教育学研究科	岩 槻 知 也
	現代社会研究科	濱 崎 由 紀 子
	図書館司書課程	桂 まに子
	教務部長	田 上 稔
	教務部次長	阿 部 純 宏
	教務課長	小 川 正 仁
	学部事務課長	高 堂 順 子

FD推進 活動レポート

1 平成25年度後期「授業アンケート」の実施

授業の改善、教育の質向上に資することを目的として、平成25年度後期授業期間に「授業アンケート」を実施しました。

【後期】実施期間：平成25年12月6日(金)～平成26年1月20日(月)

対象科目：平成25年度後期開講科目

(後前半開講科目、受講者数10名未満の科目(希望する場合は実施可)は除く)

実施件数：713科目(なお、所見の提出は494科目)

※科目数について…専任教員は、担当授業の中より任意に選択した2科目(2クラス)以上。

非常勤講師は、任意に選択した1科目(1クラス)以上。

★「授業アンケート」の所見を

本学Web上に公開しました!

「授業アンケート」の集計結果に基づき執筆された所見について、6月14日より学内Web上に公開しました。

具体的な閲覧方法については、学内Webの「修学Q&A」を選択の上、「授業評価所見を見たい」をクリックすると検索方法をご覧いただけますので、ご利用ください。

【学内Web画面】



【検索方法(概略)】

- ①KWIINS CLASSにログインする。
- ②画面右上の「授業評価所見」をクリックし、授業評価所見検索画面に入る。
- ③教員名から検索する場合は「教員検索」をクリックし、担当者名を選択する。(教員検索は教員名を直接入力しても検索できません。必ず「教員検索」から検索してください。また、科目名から検索する場合は科目名を入力してください。)
- ④「検索」をクリックし、表示された科目を選択すると所見が表示されます。

授業インタビュー

本誌を通じて、それぞれの先生方の授業に対する考え方や様々な授業工夫について情報共有を図り、少しでもご参考になればという思いから、授業インタビューを実施しました。

図書館司書課程 専任講師 桂 まに子 先生

授業名★情報サービス演習

内容★全学部・学科の2年生以上を対象とした図書館司書資格の授業。1クラス15-25名。図書館のレファレンスブックやデータベースを最大限に使って取り組む演習を通して、情報サービス（質問回答、情報検索）の技術を磨く。

Q 授業で工夫されている点についてお聞かせください。

A 多種多様な質問に図書館員が効率よく回答できるようになるには、的確な情報源を選択するための基本知識の他に、質問者との短い会話の中で質問内容を正確に分析する能力が求められます。特に、初対面の人とコミュニケーションを取ることは図書館の情報サービスにおいて日常茶飯事です。そこで、本授業では、学生たちが互いにインタビューし合う「記者会見式自己紹介」を初回授業に行い、専門的な図書館演習の導入プログラムとして活用しています。



写真1 (ネームプレートサンプル) ※仮名

Q 記者会見式自己紹介について詳しく教えてください。

A 最初に、学生たちは自身の基本情報や自己PRとなる情報（趣味、特技、サークル、アルバイト、好きな作家など）を載せたネームプレートを作成します（写真1）。次に、6-7名で1つのグループを作り、キャスト席（質問に答える人）と記者席（司会進行、質問をする人たち）を決めて輪になります（写真2, 3）。ネームプレートの情報をもとに記者たちが順番に「相手についての理解を深めるための質問」をしていき、キャストは一問一答方式でそれらの質問に答えます。本人のみが話す一方的な自己紹介と異なり、記者会見式の自己紹介にはキャストと記者による双方向のコミュニケーションがあるため、自分の特徴や他者との共通点が自然に引き出されて行く特徴があります。



写真2

Q 記者会見式自己紹介は学生の自発的な学びにどのように影響しましたか。

A 相手が伝えたい内容を掘り下げて質問をするというやり方は、情報サービスのプロセスを学生自身が体験しながら理解できるため、実践的な学習の教材として役立ちました。また、学生からは「顔は見たことがあったが言葉を交わしたことはなかった人たちの名前やどんな人なのかを知ることができ、お互いの距離感が少し近くなった」「同じ学科もしくは他学部・他学科の同級生や先輩と深く話せたことにより、共に学んでいるという一体感や連帯感が生まれた」などの意見が出ており、クラスで孤独にならない学習環境づくりに適したプログラムでもあるように感じています。



写真3

学生たちの自発的な学びから生まれた成果の1つに「京女図書基地」を挙げておきます。記者会見式自己紹介の最中、学生たちは「本について純粋に話せる場」が図書館にもキャンパスにも存在しないという共通認識を持っていることに気づいたようです。そして、司書課程の学生有志で行動を起こし、人と本が集まり有意義なコミュニケーションができる場を学内（京女図書基地・特論支部）や地域（京女図書基地・東山出張所）で展開していく試みが今年度より始まりました。

Q 最後に一言お願いします。

A 記者会見式自己紹介は新入生を対象とした初年次教育に有効なプログラムですが、それ以外の学年であっても演習科目のような少人数クラスの初回授業に適しています。学生の学習意欲を高め、自発的な学びを促す学習環境を整えるための一材料として、新しい自己紹介の手法を授業に取り入れてみることをお勧めします。

学外FD企画 参加レポート

FD推進センターでは、FDに関連したセミナー、シンポジウム等の開催について案内しています。実際に参加された先生に、当日の様子や感想をお伺いしました。ぜひ、今後の参考としてください。

●大学FD勉強会2014

日程：平成26年5月16日(金) 12時～17時 会場：関西大学天六キャンパス

主催：(株)教育ソフトウェア アウトソーシング事業部 発達教育学部教育学科教育学専攻 表 真美 教授



この勉強会は、大学の授業評価アンケートを請け負うなど、FD活動支援を行う民間業者の主催であったが、3つのテーマが魅力的でありまた参加しやすい場所での開催であったので、FD担当の西山岳夫係長と共に参加した。プログラムは表のとおりである。

		講師	テーマ
0	12:15～12:55	教育ソフトウェア	FD活動支援の10年 最近実施した授業評価アンケートの紹介
1	13:00～14:10	三浦真琴(関西大学)	アクティブラーニングのFuture Design
2	14:20～15:30	葦原直哉(大手前大学)	C-PLATSコンピテンシー・ファカルティによる能力開発FDの実践
3	15:40～16:50	長谷川勝久(東洋大学)	全学統一授業アンケートシステムについて

各講座の概要

0時間目：東京六大学の一つという私立大学で、最近行われた授業評価アンケートの改革の紹介があった。平均値を他の授業と比較するのではなく、授業方法の改善すべき項目を自身の結果の分析から見出す方法に改革したとのこと。1時間目：アクティブラーニングの理論、関西大学での例が紹介された。カリキュラムにおける当該授業の位置づけ、目標、内容、受講者数、ラーニングアシスタント、受講生のグループの分け方など、詳細にわたる話があった。2時間目：大手前大学で行われた教育改革の紹介。問題解決能力を育成することを主眼としたトップダウンの大学全体の取り組みによって、就職率が大きく上昇する効果が出ている。3時間目：多くの学部、学生を抱える大規模大学で、これまで学部ごとに独自に行われていた授業評価アンケートを全学共通とし、授業の改善につながるよう分析方法を工夫した例の紹介があった。学生の学習成果と教員の授業方法との関連を分析し、教員への結果報告は、良かった点を指摘、点数が悪い項目の改善をもとめるようにしたとのことであった。

勉強会参加の成果

教育力向上のために、他大学が様々な努力を行っていることが分かり刺激を受けた。自身の授業力向上のためにも授業方法の勉強が必要だと実感した。授業評価アンケートの分析に関しては、FD推進委員会の議を経て改善を加える計画である。また同様に、今回我々が講座を受けた関西大学の三浦真琴先生に、本学でのアクティブラーニングについての講演を依頼する予定である。

FD講演会の開催について

FD活動の一環として「アクティブ・ラーニング」をテーマにFD講演会を開催します。

当日は学外より講師を招き、アクティブ・ラーニングの現状や授業運営上のさまざまな留意点や課題などについて、ワークショップを含めた講演をしていただきます。

多数ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

1. 日 時 平成26年7月30日(水) 14時45分～16時15分(予定)

2. 会 場 S校舎3階 S306多目的教室

3. 講 師 三浦 真琴 氏(関西大学教育開発支援センター 教育推進部 教授)

4. 講 題 「アクティブ・ラーニング 事始め」

平成26年度前期「授業アンケート」の実施について

昨年度に続き、本学教員の授業改善、教育の質向上に資することを目的に「授業アンケート」を実施します。実施にあたっては、以下のとおりご協力くださいますようお願いいたします。

1. 実施期間

平成26年7月7日(月)～7月26日(土)

[7月上旬配付時から前期授業終了日の8月2日(土)までの期間において実施可。]

2. 実施方法

- (1) 実施する授業中の適当な時間あるいは試験終了後の時間に、封筒に入れてある「アンケート用紙」を配布してください。
- (2) アンケート用紙に記載してある「調査の趣旨」(最初の2行)を読み上げ、学生に回答を依頼してください。
- (3) 回答を終えた学生から用紙を裏向けにして提出させてください。受講者数が多い科目は直接封筒に入れさせるなど、回収方法はクラス規模に合わせて適宜提出しやすい方法を探ってください。なお、受講学生中より代表者を数名選び、当該学生に責任をもって回収させても結構です。
- (4) 回収を終えた用紙は、必ず元の封筒に入れてください。その際に、未使用分のアンケートは封筒に入れずに、別にしてください。

3. 提出場所

- (1) 専任教員 各校舎分室または学部事務課に提出してください。
- (2) 非常勤講師 講師控室または学部事務課に提出してください。

平成26年度前期「授業の公開・参観についてのアンケート」へのご協力について

前期授業期間におきまして、お忙しい中、授業の公開・参観にご協力を賜り、ありがとうございました。

つきまして、今後の公開授業・参観実施の参考とさせていただきます。アンケートにご回答いただき、8月8日(金)までにFD推進センターまでご提出くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- 【質問項目】**
- (1) 前期授業期間中に、授業の公開を行われましたか。
また、公開いただいた場合はその授業名を、さらに参観者があった場合は、その人数をお聞かせください。
 - (2) 前期授業期間中に、公開授業の参観を行われましたか。
また、参観を行った場合は、授業名・担当教員名についてお聞かせください。
 - (3) 授業の公開・参観に関するご感想や、お気づきの点等がございましたらお聞かせください。
※但し、個人を誹謗中傷するようなご意見はお控えください。

【提出先】 FD推進センター(担当:西山) e-mail: nisiyama@kyoto-wu.ac.jp

FD関連図書のご案内

FD推進センターでは、FDに関する図書資料、他大学のFD報告書及びニュースレターを閲覧できるようにしています。ご希望の方はセンターまでご連絡ください。

また、FD推進センターで所蔵した方がよいと思われる書籍がありましたら、各学科・研究科のFD推進委員会委員またはFD推進センターまでご連絡ください。



学生の学びを支援する大学教育

溝上慎一(編)
発行所: (株)東信堂
出版年: 2004年
ISBN 4-88713-549-1

【内容】

本書では、京都大学でおこなわれた「学び支援プロジェクト」に関する理論的・実践的成果が報告されている。京都大学のフィールドをもとにまとめられたものであるが、学生の学びを大学教育がいかに支援できるか、学生参加型授業における教授などの内容がまとめられている。

おわりに

FD推進にかかる取り組みについて、今後も随時計画・実施を進めていきたいと考えています。ご意見・ご要望などがございましたら、お気軽に事務局(FD推進センター)までご連絡ください。

また、FD推進委員会の委員の先生方を通じてご案内しております、他大学・団体等が開催するセミナーやシンポジウム等につきましても、FDへの理解を深める一助として、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

- ◆発行日
平成26年7月17日
- ◆発行者
京都女子大学FD推進委員会

- ◆事務局
教務部学部事務課 FD推進センター
TEL: 075-531-7045、9121
E-mail: gakuji@kyoto-wu.ac.jp (学部事務課)
nisiyama@kyoto-wu.ac.jp (担当:西山)

